

ナショナル・レジリエンス（防災・減災）懇談会（第39回）

議事概要

〔日時：平成30年2月28日（水）15:00～16:40〕
〔場所：スタンダード会議室虎ノ門ヒルズフロント店3階〕

【議事次第】

1. 脆弱性(予備)評価結果について
2. 重点化の考え方等について
3. その他

【意見交換の概要】

脆弱性(予備)評価結果について

（奥野委員）

- ・ 国の計画レベルでは、フローチャートや横断的分野など、各施策の横の連携・連絡が考えられているが、施策を実行する現場レベルにおいても、横の連携・連絡を十分なものにしていくことが重要である。

（山下委員代理櫻内第二公共事業本部部長）

- ・ 官民連携では、官の研究技術を民が受けてさらに発展させる等、官民の間での継続的な流れが重要である。これにより、国全体での民の活性化、ひいては経済の成長にもつながることから、継続的・重点的に進めていくことが大事である。
- ・ 基礎自治体では、避難や受援の判断等が出来る人材の育成に苦慮しているところもあるため、防災士等の人材を派遣し、切磋琢磨していくなどの取り組みが重要である。

（秋山委員）

- ・ 国土強靱化と、高齢化対策や人口減少対策などでは、施策レベルではかなりの部分が重なっている。自治体レベルでは、これらの対策が同じ担当で行われることもあるため、対策がオーバーラップしている部分を整理しやすくするなどの配慮が必要である。

（浅野委員）

- ・ 東京への一極集中や地方の人口減少が、各分野の脆弱性にファンダメンタルに効いており、これらの問題を解決しないと、地方を支える人がいなくなり、どの施策も動かなくなってしまう。評価結果のポイントでも「国土利用、産業構造の脆弱性についての対応が必要」とあるので、一極集中是正についての内容をもっと個別分野の中に織り込んでいくことが重要である。

- ・物事には不可逆的なものと可逆的なものがあり、特に不可逆な課題を注視していくことが重要である。
- ・官民連携においては、規制緩和もあわせて進めていくことで、民間の取り組みがさらに進むとともに、日本の成長力や活力にもつなげられるのではないかと。

(小林委員)

- ・人材育成については、防災教育との違いが明確になるように、さらに内容を充実させていくことが重要である。また、これまで横断的分野にはKPIの設定がなかったことから、横断的分野の評価のあり方について、今後検討していく必要がある。

(奥野委員)

- ・官民連携や人材育成の分野において、NPOの役割を見直すことが大事である。休眠口座の活用などにより、防災・減災や人材育成に資するNPOの取り組みを支援していくことを今後考えていく必要がある。

(秋山委員)

- ・新しいアイデア等はNPOにあることも多いが、行政のNPOに対する認識は低い。行政の認識をまず変えた上で、町内会や自治会と同じように、行政がNPOを積極的にサポートする仕組みを構築していく必要がある。

(柏木委員)

- ・各プログラム間の連鎖を見ると、情報、通信、電力、交通の4つが根源となっているものが多いことから、これら4つの分野の施策の重要度を上げるべきではないかと。

(藤井座長)

- ・コラムAでは、「自律・分散・協調」型国土の形成に関する記述が十回以上出てきていることから、コラムBでも「自律・分散・協調」型国土形成に資する施策を、多くの分野において重点的に織り込んでいくことが必要である。
- ・コラムBの各施策については、脆弱性評価の際にあわせて定量的な評価を行ったり、あるいは各施策分野において定量的な評価を行う旨を明記するなど、定量的な評価を反映させたものとしていくことが重要である。

重点化の考え方等について

(奥野委員)

- ・最近では、「コンパクト+ネットワーク」における小さな拠点の機能を、コンビニが担っていく可能性もでてきており、強靱化においても、施策の担い手としての民間の役割をもっと打ち出していくべきではないかと。

(山下委員代理 櫻内第二公共事業本部部長)

- ・ 戦略的政策課題を議論するにあたっては、情報通信や交通といった、戦略的に大事な機能を止めないという視点と、それらの機能が仮に止まってしまった場合に、どのような次の施策が打てるかという両方の側面から議論することが重要である。

(浅野委員)

- ・ 横断的分野と戦略的政策課題の関係性を整理する必要がある。横断的分野には実態としての施策があるが、戦略的政策課題は施策の有無にとらわれず、国家として戦略的に検討すべきものを、より明確にするために加えられたものと見ると分かりやすい。

(藤井座長)

- ・ 戦略的政策課題は、重要な課題について、施策に漏れがあるかどうかを、客観的な立場からチェックしていこうというプロセスになると考えられる。
- ・ 戦略的政策課題は、分野横断的であることも多いが、特定の分野だけを戦略的に取り上げることも考えられる。
- ・ 戦略的政策課題の立て方をどうするかが最初のポイントになる。フローチャート分析において頻出度合が高いものから議論していくことも考えられる。
- ・ この新機軸により、これまでの感覚的な議論を客観化できたのは大きな成果であり、次期基本計画のスパイラルアップにおける一つのポイントになると考えられる。

(以上)